

各部会より

● はたらく部会（あかつき；原崎）

令和 7 年度 10 月から就労選択支援が開始されるので、就労選択に関する状況を把握していく。  
今回特に協議会に挙げる議題はない。

● 暮らし部会（こすも；高木）

令和 6 年度は地域で支える仕組みづくり、体制づくりに取り組んでいく。

☆：地域連携推進会議も令和 7 年度より義務化される。そこへ向けても体制づくりをしっかりと！  
GH を経て一人住まい、という流れを国はすすめてきている。

● 子ども部会（たちばな園；日笠山）

- ・ 障害歯科もぐもぐ外来の開始において、まずは島内の実態を調査し、現状を把握してからその情報を歯科医師会の方に提供し、必要性等を判断してもらう。
- ・ よろ一てファイルに関しては、次年度最終的な活用方法に関して、引続き検討していく。
- ・ すまいる親の会からの要望への回答として、居住校区の入学式参加の件に関して中種子町からは入学通知書の届いた学校の入学式に参加して欲しいとあった。南種子町からは、入学式への直接参加はできないが、参観は可能とのこと。
- ・ 医療的ケア児等の訪問看護に関して、在宅重心児家族支援を利用すると費用は本人負担 1/3、町負担 2/3 となる。対象は 18 歳以下の児童。
- ・ 特別支援学校高等部来年度 3 年生の児童がおり、18 歳超の成人やその家族のレスパイトこそが課題。
- ・ 不登校生徒の居場所作りに関して、南種子には通級指導教室がないが、どの程度のニーズがあるのか実態把握が必要。

● 相談支援部会

- ・ 福祉現場で働く人材不足、人材確保が大きな課題。熊毛支庁も PR をしてくれているが、実際に島内での就職を希望される方がいても住宅が確保できないという問題がある。

● 権利擁護部会

- ・ 相談業務を通じて、島内ではまだ障害をネガティブにとらえがちである面があり、そのために人の目が気になってしまい、受診や診断はもとより支援にも繋がりにくいケースがある。
- ・ 多様性の尊重が叫ばれるこの時代、障害に対するネガティブな価値観を払拭し、一人一人がその個性を認められ安心して暮らしていくことができる社会を実現するためにも障害を抱えている方のことをより深く知ってもらうことが必要なのではないかと感じる。
- ・ 障害を抱えている人にスポットを当てている映画の上映会等を開催していき、障がいを抱える方々について一般の方々にもより深く知っていただきたけるよう、啓発活動を続けていく。

## その他

### ● 中種子特別支援学校

- ・ 下記アンケート結果に対する回答「未就学児の方の支援をさせて頂いている中で、“就学へ向けて”保護者の不安が強いと感じることがあります。学校（特別支援学校も含め）で実際に学校の先生たちがどんな風に支援しているのか、もしくは就学した児の保護者が就学前にこんな支援をしてほしかったという声があるならば、是非お伺いしたいです」  
→ 特別支援学校では小中高校ともに毎年10月頃に学校参観週間を設けているので、期間中にぜひ足を運んでいただきたい。また、運動会や発表会もコロナ禍の影響もおちついてきており、見学できると思われます。その他に体験学習や学校説明会も実施しており、電話での相談も受け付けています。気になることは何でもご相談ください。また、周囲に就学に関してお困りの方がいらっしゃったらぜひ、上記のようにお伝えください。

### ● 熊毛就業・生活支援センター

- ・ 10年間社会福祉法人暁星会が引き受けさせていただきました。
- ・ 令和6年度からは社会福祉法人百合砂さんが熊毛就業・生活支援センター（通称中ポツ）を引き継いでくれます。

### ● 基幹相談支援センター

- ・ 種子島地区難病対策協議会（西之表保健所主催）から、難病を抱えている方の就労相談に関する冊子やリーフレットの作成を自立支援協議会とともに進めていきたいと提案をいただいている。令和6来年度4月の運営会に保健所より上室氏を招き、その件に関して改めて説明していただくことになっている。

### ● 喀痰吸引研修について

- ・ 年始に行ったアンケートからは喀痰吸引研修希望者が12名いることが判明。
- ・ 喀痰吸引第三号研修の種子島島内での開催要望書を来月中に熊毛支庁に提出する。

### ● 防災に関して

- ・ 福祉避難所は各市町にあるが、南種子町は高齢者施設の対応となっている。
- ・ 今後、自立支援協議会ホームページにも福祉避難所情報を掲載していく予定。

### ● 看取りに関して

- ・ 利用者の高齢化に伴い、今後は施設やグループホームでの看取りが多くなってくるだろう。
- ・ スタッフのメンタルケアの必要も高まるだろう。

### ● 広報紙

- ・ 島内の方々に正しく障害や福祉について理解してもらう目的で、令和6年度5月号より自立支援協議会メンバーを中心に執筆し、各市町広報紙に情報を発信していく予定。